

―連携取組で育てたい人材像とは。

本取組では、連携する大学群及び各機関と協働のうえ、「異文化交流型リーダーシップ・ネットワーク」を形成し、①段階的異文化交流、②経験を学びに変える省察、③持続的なリーダーシップ養成、④地域や世界との連携をつうじて西日本の大学から地域や国際社会で活躍し「学び続けるリーダー」の輩出を目指します。

―そのような人材を必要とする背景には、どのような課題があるのでしょうか。

市場経済のグローバル化に伴う求められる能力の多様化・流動化や情報社会への移行などを背景に、大学の中や地域・国際社会で活躍する人材のリーダーシップ養成が、大学における喫緊の課題となっております。

―なぜこの10大学・短大で連携することになったのですか。

本取組の中核となるプログラムである愛媛大学リーダーズ・スクール（E.L.S）では、体系的・段階的・継続的なリーダーシップ養成プログラムを展開してきました。現在、その成果が認められ手法の伝授や連携による取組の要望を受け国内外でのリーダーシップ養成研修、地域リーダーとのプロジェクトを実施しており、連携する各校とはそれらの協働実績があります。そこで、本取組により区々として行われていた各プログラムの標準化を目的に実績校で連携いたしました。

―取組は5年間実施します。どのような計画を立てていますか。

本取組では、支援期間終了時まで約2千人を対象に約50事業（年間）を実施します。なお、初年度は、調査・準備期として各種研修の企画立案、担当教職員の能力開発研修、ステークホルダーとの連携プロジェクトを実施するほか、2年目を以降は、試行期、本格運用期、評価・検証期、改善期とし、プログラムの標準化を推し進めます。

―この事業に採択されたことで、新たにどのようなことができるようになりますか。

本取組で新たに6名の担当教職員が雇用でき、その人材を育成することで、各大学ひいては各地区にプログラムを展開することが可能となります。

そのことにより、千名を超える学生、延べ5百名の教職員を対象としたプログラムを提供することが出来るようになりました。また、連携校における様々な学生と活動を対象に効果測定を行い、その結果を基に民間能力開発企業を共同で、日本人学生に適したリーダーシップ評価指標の開発と標準化が可能となります。

―取組の中には、各大学等でこれまで行っていた活動のレベルアップを図るものもありませんか、それはどのようなものですか。

これまでは、慣れ親しんだ仲間との環境下でのプログラム実施であったが、本連携により「立場や世代間、文化背景の異なりを超えた（＝異文化交流）」とすることが出来ます。

―連携の成果はどのような形で社会に示すことができるのでしょうか。具体的な成果指標のイメージはありますか。

本取組の成果としては、学生リーダーシップ養成プログラムのマッピングと評価指標の提示、省察手法の映像教材・マニュアル化が挙げられます。

ステークホルダーからのメッセージ

財団法人えひめ女性財団理事長

田 中 チカ子

社団法人えひめ女性財団は、男女共同参画社会づくりを推進するために様々な事業に取り組んでいます。

本連携事業においては、リーダーシップの醸成という共通テーマのもとに社会人と学生が世代や立場を超えて学び交流することで学習の効果を高めています。当財団の事業目的を達成する上において、他機関と連携を図り多様性のある社会形成を実現していくことが肝要と考えており、大学間連携共同教育推進事業の取組について大いに期待しています。

